

柿産地の耕作放棄園解消対策

(対象：菅生町活動組織、天理市果樹園芸組合)

要約

天理市の柿産地では農業者の高齢化や担い手不足により遊休柿園が増加しつつある。遊休柿園の解消対策として既に取り組んでいる柿の木オーナー制と併せ、果実生産より省力的に取り組める柿葉生産と、防除作業の省力化により担い手の規模拡大を図るため自走式防除機の導入についての誘導を図った。

現状(背景)と課題

- ・H24年から柿オーナー制度を開始
(H26年：面積20a、オーナー47組)
- ・生産者の高齢化による経営面積の縮小などで柿園の遊休化が進みつつある
- ・作業強度の高い防除作業が経営の縮小や廃止の要因となっている

目標

- ・柿オーナー制の定着
- ・省力的に取り組める柿葉生産の定着
- ・自走式防除機による防除の定着

活動内容

- ・H26年 柿の木オーナーの集い開催 (H26 2/22剪定、6/15摘果、10/4、25収穫) オーナー47組
- ・菅生町に柿葉生産実証圃を設置 (2a)
- ・自走式防除機利用の事例調査 (御所市、6/7)、実演講習 (天理市内、7/16、1/28)
- ・地域打合せ会の実施 (13回)

成果

- ・柿の木オーナー制度の評価は良好でありオーナーのリピート率が高く、H24年の22組からH26年には47組まで増え、制度定着の目処が立った。
- ・柿葉生産については、実証圃2aを設け、地元柿の葉寿司メーカーにサンプル出荷を行い良い評価を得た。地域内の生産者の関心も高く、新たに8aが柿葉生産園へ転換された。
- ・自走式防除機については、利用産地の事例調査や、機械体系に合わせた園地整備の講習会を行い導入の促進を図った結果、地域内で2台が導入された。



柿の木オーナーの集い(6月、10月実施の様子)



自走式防除機の利用実演会の様子



柿葉生産園と収穫された柿葉

北部農林振興事務所農林普及課
担当：担い手係 小走善宣・産地づくり係 角川由加
(農村資源を活用した地域づくり事業)

普及活動のポイント

- ・柿葉生産では実証圃を設置し、栽培から収穫までの流れを掴めるような指導を行った。また、収穫した柿葉を地元柿の葉寿司メーカーにサンプル出荷し、販売についてのイメージを持てるようにした。
- ・自走式防除機の導入では、利用産地への事例調査、地域内での利用実演会の開催など、生産者が利用について具体的なイメージを持てることに重点を置いた活動を行った。

対象の変化

- ・柿葉生産では実証圃で生産者自身に収穫作業からサンプル出荷まで行ってもらったことで栽培面、経営面でのイメージが掴め、生産拡大への意識醸成に繋がった。
- ・自走式防除機の利用事例調査や現地での実演会の実施で導入効果が高いことが確認でき、導入への機運が一気に高まり、産地内で防除機の導入に繋がった。

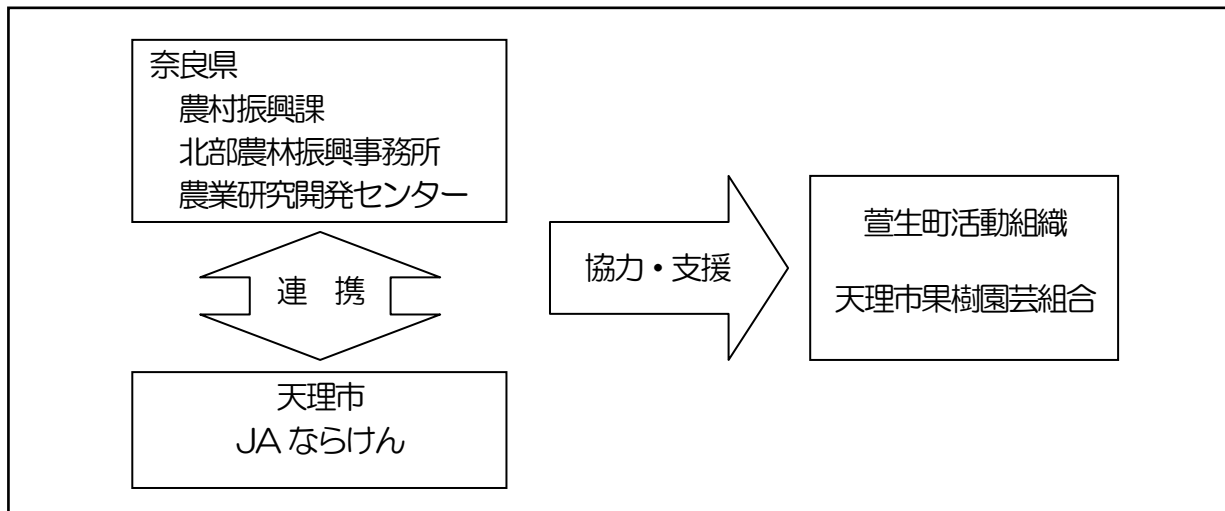
対象者からのコメント

- ・柿葉生産は重労働でないため高齢者でも取り組めるため、高齢化で柿作りをやめようとする柿園を葉取り園に替えていければ園地の荒廃が防げると思います。
- ・関係機関の方には引き続き支援いただき、産地の振興を図っていきたいと思います。

これからの活動ビジョン

- ・地域の耕作放棄地解消に向け、軽作業で取り組める柿葉生産の導入・拡大を進めていく。
- ・中核的な生産者が自走式防除機を導入することで作業に余裕ができた中核的農業者への防除作業の委託や、規模拡大を進めて行く。

活動体制



用語解説

耕作放棄地

以前耕地であったもので、過去1年以上作物を栽培せず、しかもこの数年の間に再び耕作する考えのない土地

山の辺の道地域づくり協議会

地域資源の活用と賑わいのある地域づくりを目的とした協議会。奈良県、天理市、桜井市、JA、地元関係者（以下）、学識経験者等により構成される。

地元関係者

天理市：園原町・乙木町・萱生町・竹之内町・中山町・天理市果樹園芸組合・天理市4Hクラブ・天理市生活改善グループ
桜井市：グリーンはしなか・大和柑橋組合